特別寄稿

【“まちづくり”を考える情報誌「おッ!!まっちぃ～」100号記念に寄せて】

“群馬流”のまちづくりのバイブルとなることを祈念して

帝京大学経済学部観光経営学科長　教授　大下　茂

創刊から16年の歳月を経て、100号の記念すべき発行を迎えられましたことにお祝い申し上げます。

100号、それは数字としての意味以外に、『百』と記述することで、“多くのもの”の意味を持ち合わせています。百貨店、百獣、百科事典や百人一首等、100を超えるものを代表する言葉として『百』が使われています。“まちづくり”を考える情報誌「おッ!!まっちぃ～」の“百号”には、これまでにまちづくり関連の県内外の多くの情報が掲載され、それをヒントや手掛かりとして新たな取組みへと発展する源となってきたと思われます。

掲載記事を辿ると、適時性のあるまちづくり情報やまちづくりに先行的に取り組んでいる地域の情報と、群馬県発信の地域ならではの情報を、群馬県に軸足をおいて編集されてきたことに意味と意義があります。志をもってまちづくりに取組む者にとって、前者は“風”の情報を、後者は“土”の情報をもたらし、地域の中でのまちづくりの熱意が重なることで、21世紀の県土の新しい“風土”を形づくりつつあることに貢献しています。

2004.7の24号に『桐生新町まちづくり展』でのまちづくり講演会の紹介をいただいた後、『魅力あるまちづくりパートナーネットワーク講座』の講師の用命を賜ることとなりました。また、79号(2013.9)からは、小職のゼミ生が寄稿する「観光まちづくり最前線」に誌面をさいてくださり、これまで4代のゼミ生が襷がけでの執筆リレーを行い12回の寄稿をさせていただく等、群馬県まちづくり活動の応援団となる機会をいただきました。

まっちぃデビューとなった24号(2004.7)。『桐生新町まちづくり展(まちづくり講演会)』の紹介記事

日本のみならず世界的にも内発による自国・自地域の活力を高める方向に向きつつあります。このような時流の中、本誌が地域内外の情報を群馬県ならではの視点から切り込む『群馬流(style)のまちづくりの情報誌』のバイブルとなり、群馬県のまちづくりが百花繚乱の活動へと発展することを祈念いたしております。

2年目のパートナーネットワーク講座(2005年度)、榛名町社家町の体育館にて。翌朝、前日の飲み残しのコーヒーが凍っていました。